

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		立地的に隣近所が離れていることもあるが今後も地域の方々に呼び掛けていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は、事業所の実践内容を踏まえて、地域の研修会に参加した。人材育成の貢献として実習生の参加の受け入れも積極的に行っている。職員は、ショートステイ、デイサービスの利用者様となじみのつながりができている。地域貢献。職員が講師として地域へ出かける。ボランティア受け入れにより専門性の伝授をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一同が評価の意義の理解をして今後改善し活かせるように努めている。全員で自己評価に取り組んでいる。改善にむけて職員で話し合い検討し、実践するように努めている。		自己評価、外部評価勉強会の開催。評価過程における具体的改善策の提案、実施。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は経営状況について話し合いがもたれ、利用料金改定につながる意見をいただき、現在進めている。		運営推進協議会の目的や毎回の会議の内容を報告し、今後も意見等いただきながらサービスの向上に努めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員から運営推進委員、入所判定委員として参画していただく中で、サービスの質の向上に取り組む意見をいただいている。市の健康診断の結果説明に保健師から来所してもらった。		引き続きショートステイとの入口ドアの改善について市役所をお願いしていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業・制度内容の学習会の開催し、地域包括センター、社協担当職員との連携を図りながら活用できるように取り組んでいる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる行為はどのようなことが、職員一同自覚を持ちながら防止の徹底を図っている。外泊された場合など、ご家族に様子などを聞かせていただき、そのようなことがないように注意を払っている。		関係法規の学習会、虐待防止のための研修会の開催。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入院された利用者様の退所にいたるまでに十分な説明をして理解、納得をいただけるようにした。新規入所の際も不安のないように利用契約書に基づき詳しい説明をした。</p>	<p>料金改定にむけてご家族に十分説明をして、ご理解と承認をいただけるようにしていきたい(契約時の基本説明マニュアル)。そのための書類作成と整備をしっかりとしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外出計画には、要望も取り入れた内容にして取り組んで大変喜ばれている。毎日の役割分担等についてもご本人の訴えを見逃すことがないように職員が配慮するようにしている。ホーム以外の職員との交流もあって情報提供につながることも可能である。</p>	<p>入所者、運推協メンバーになっている。職員の入居者担当を決めている。上越市介護サービス評価会議委員の定期訪問受け入れを行っている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態の悪化の時だけでなく、ご家族様には連絡をするようにしている。行事には参加を呼びかけ一緒に過ごす機会が持てるようにしている。訪問時には必ず現状を話し合い、要望等の確認をしている。金銭管理は、出納帳を作成してご家族に確認いただいている。</p>	<p>たよりによる定期的な情報提供の他、なお一層ご家族との関係が築いていけるように努めていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>やすらぎ荘全体に意見箱の設置があると共にホーム以外の職員とも相談できる機会もあり、サービスに反映できる姿勢で取り組んでいる。面会時などには、何でも言っていたるように職員は雰囲気作りに留意している。</p>	<p>ご家族の代表が運推協メンバーになっている。ご家族様の説明会にはたくさんの意見をいただき、より良いグループホーム運営ができるように努めていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月例定例会議、朝のミーティング等で意見交換し、提案の機会があり、反映させている。毎朝のミーティング及び月例定例会議の開催。職員間の連絡ノートの活用。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の体調不良の際、ご家族様が対応できるまで職員が病院まで付き添い対応をした。そのための職員調整も素早くできた。また他の事業所より協力がもたらえる体制となっている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動では最小限に努め、馴染みの関係が保たれるように配慮している。職員交代による利用者様への影響が少ないように新しい職員への引き継ぎに配慮している。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアル整備をして、統一した支援が実践できるように努めている。職員一同で取り組んでいる。</p>	<p>引き続き変更があった場合に、見直しを行っていくとともに、今後も作成しなければいけないマニュアルを検討し整備をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>社協全体、支所内、事業所内に於いて人材育成についての研修会がもたれている。資格習得については、習得者などからアドバイスをもらう機会もある。</p>	<p>新人職員育成プログラムの整備。資格取得希望職員への支援(組織の職業専念免除制度の活用等、勤務割り振りの配慮)や積極的な研修派遣の実施。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>やすらぎ荘全体で職員研修を開催しサービス向上に取り組んでいる。また各種研修に参加し他施設実習において相互の関係ができた。</p>	<p>他施設のグループホームとの交流を図って質の向上、職員の意欲向上に努めていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に数回慰労会を実施してストレスの軽減を図っている。休憩時間等の休憩場所の確保や職場を離れられるように配慮している。年数回の慰労会を通し、お互いに日常業務の労をねぎらう機会を確保している。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎朝のミーティング並びに月一回全体職員会議の際、上司から職員に対してねぎらいの言葉や努力をたたえ、向上心を持てるよう努めている。</p>	<p>毎月の自己評価のチェック表により反省点等振り返る。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には、ご家族様、担当ケアマネ、その他の事業者などから情報提供をしていただきながら、馴染んでいただけるよう一同を配慮しながら進めている。ご本人には不安のないように温かい気持ちで受け入れをする姿勢で、対応している。</p>	<p>本人・家族に対して行う初回面接の目的を明確化するためのマニュアルの作成。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前にホームを見学していただき、不安のない対応をしている。ホームでの生活内容を理解していただき信頼を得るように努めている。事前の施設見学による施設や居室、現ご利用者様の様子が把握できるようにし、現場での不明な点、疑問点等、気軽に聞いていただけるよう配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク、アセスメントを通じて、本人、家族のニーズが把握できるように努めている。		他の事業所との連携を深め、グループホーム以外に在宅生活継続の可能性がないかを考え必要に応じてアドバイスをしたい。またニーズが実現できるようやすらぎ荘の事業所や他のサービス事業所と日常から連携をとっている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所判定会議で入所が決まった方に、正式入所される前にお試し利用期間を設けて、入所継続の可否を判断している。		空き部屋が生じた時の体験利用の促進。入所待機利用者に気軽にホームに訪れていただき、雰囲気や様子に触れていただく機会を提供したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の意思及び人格を尊重し、日常生活において生じる様々な仕事を職員がしてあげる仕事ととらえずに利用者が生活の主役としての充実感を持てるように共にする姿勢をもって対応している。		利用者様の生活の場であり、職員はあくまで影で支える存在としての認識を強め、より利用者様自身が生活の中心にいと実感できるような工夫をしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院介助や、イベント行事への参加等、ご家族様にも協力をお願いし共に楽しく過ごしていただいている。		ご家族様と良好な関係を築くためご家族様の生活を侵害しないように配慮しながら、無理のないように協力をお願いしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	イベント行事等への参加の案内、呼びかけを実施し、共に過ごす時間の確保に努めている。また年末年始外泊の呼びかけをしたところ、4名の利用者様が自宅等で過ごされた。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご親戚、入所前に所属していた会等との関係が継続できるように支援している。		居室内の環境作りを充実させ、外出・ドライブを通して馴染みの場所めぐりを行う。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の利用者様同士の関係が悪化しないように目配りをしている。必要に応じて利用者同士の間立ち、関係の修復調整役をできるように努めている。		職員の担当性による個々の把握と利用者同士のトラブルの事前防止を図っている。狭い共同生活住居で利用者様同士の関係が悪化しないように常に目配りして間に立て調整役となるように心がけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて行っている。退所されたご家族様が気軽に相談できるように接している。		退所後の関係を断ち切らないための具体的対応を検討して取り組んでいきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を聞くことが困難な利用者様については、表情や態度、家族から話を聞いたりして検討している。		お茶のみ時間を大切にしたり個々人とマンツーマンで接する時間の充実、職員間の連携の強化。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努めている。ご家族様に聞き取りをさせていただいたり、ご本人から直接聞かせていただいたりして把握できるように努めている。		利用者様のこれまでの生活スタイルを継続するために出来る範囲の支援をして生活環境を整えていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご家族様から聞き取りをさせていただいたり、折に触れご本人から聞きだせることもある。秋には大根の種まきから収穫まで携わっていただいたりした。		今後も畑で野菜もぎなどの収穫の喜びなど在宅生活で行ってきた事など出来る限り対応していきたい。それ以外の個々の生活習慣を尊重し、一人一人に合った生活習慣を見出せるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期会議における個別ケア計画を検討し、生活歴や入所前の状況を確認し、なるべくご本人の生活スタイルを変えないように介護計画に活かせるように努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援内容の変更の必要性が生じたとき等は、ご家族に連絡して対応している。計画書の見直しは随時行っているが、計画書の更新まではできていない。		現状に即した介護計画がなされていくように計画作成担当者を中心に支援計画を作成するようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容を記録して実践等に反映している。変化のあった日々の様子は特に情報の共有につながっている。		引き続き介護計画に活かせるような記録を心がけてよいサービスに努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険が認める医療連携体制は確立されていないが、健康管理、受診付き添い、早期退院の支援などショート、デイ看護師の協力を得ながら対応している。重度化した場合や終末期の対応など、できる限りの支援をしている。		利用者様、ご家族様の状況が変化していく中で、柔軟な対応が出来るようにこれから取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の避難訓練には、地域の協力隊、東頸消防署、行政、防災業者等の協力をいただいて実施している。地震災害時などの非常災害緊急連絡系統図が作成されており、協力体制が整っている。		地区担当民生委員との連携の構築。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行政の支援サービス(オムツ券、訪問理美容、利用者助成金、布団乾燥など)は利用している。馴染みの理容店から散髪にきていただいている。		運推協メンバー、地域包括支援センターとの連携強化。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月1回の職員定例会に参加いただき、相談・助言を頂き、連携をとっている。運営推進会議のメンバーとなっただき、運営に協力いただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診及び急な病状変化の際の緊急往診が受けられ適切な処置が可能である。また定期的な往診時には、介護相談にも応じていただきながら、ご家族様への情報のやり取りがなされている。		今後も利用者様、ご家族様と受診結果が共有できるよう努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状が進み、かかりつけ医以外の認知症専門医にかかっている利用者様もいる。書類で生活の様子を伝えたり、必要に応じて職員が受診に付き添って直接面談し、助言や指導をいただくこともある。		年1回程度、認知症専門医の診察・検査などを受けていただけるように、ご家族様に対してお願いしていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ご利用者様の体調不良時は、併設事業所であるショート・デイ看護職員と連携して、すぐに看てもらえる。自力排便が難しくなってきたりご利用者様は排便等の医療処置を依頼できる。看護師による適切な指示が受けられ職員も安心して介護ができる。		看護師を配置して医療連携体制を充実させ、ご利用者様・ご家族様に対して安心できる生活を提供していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されたご利用者様は常時医療が必要な状態となったため、3ヶ月待たずに退所になってしまった。その際、病院関係者とは面談を通じて情報交換し、退院後のご本人様の生活について話しあった。また他の症状で入院されたご利用者様は、担当医との相談の結果住みなれた環境が良いとのことで完治を待たず早期退院となったケースもある。		ご利用者様入院時の対応マニュアルを作成し、病院や家族との連携を確認し、事業所としてどのように動くのか整理する。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療との連携が不十分であるため、最期の看取りはご家族から対応していただく方向で話し合いを進めているが、ご家族様で付き添い対応が困難であるケースも多いため、将来的な重度化対応策として入所契約と同時に特別養護老人ホームへの申請書を提出いただけるようお願いしている。		医療連携体制の構築により、終末期ケアが提供できるようにしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	基本的にかかりつけ医・ご家族と連携をとって対応をしている。終末期に関しては医療機関との連携が不十分であることから、看取り段階については、必要に応じてご家族にも付き添い等の協力を得ながら対応することになっている。		看護師の配置と重度化対応への指針等を作成し、ご家族様、医療との十分な連携を図っていきたい。事業所における「できること」「できないこと」を今一度整理し、ご利用者様、ご家族様にもきちんと説明できるようにしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時のアセスメント、及びその後の様子観察や聞き取りにより、なるべく心理的な抵抗が少なく当ホームへ住み替え、落ち着いていただけるように配慮している。また別の施設に施設に住み替えるときも、関係者との情報共有を心がけている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄の誘導はさりげなく行う等、利用者様の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。朝のミーティングはご利用者様に聞こえないように配慮している。人権尊重の言葉かけの周知。記録関係の置き場所の工夫と保管の徹底。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者様それぞれのレベルに合わせてゆとりをもってわかる力に合わせた言葉で声かけするようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>全体的な見守りの中でご利用者様に接することが多くなりながら、業務割り振りでフロア担当の職員を決め、なるべく一人一人に接することができるように配慮している。</p>	<p>その日に出勤した全職員がご利用者様全員への言葉かけ、声かけを行い、必ず一回以上は笑顔を引き出せるように等気配りをしながら接するように取り組みたい(職員への意識付け対策の強化)。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>整髪はご利用者様の身体的、精神的理由から訪問理美容を利用している方が殆どであるが、ご本人様が希望する場合はご家族様が同行し対応している。</p>	<p>一人一人に合ったファッションや身だしなみができるように支援していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養士の献立・アドバイスを参考にしながら、食事がおいしく提供できるように食事作りに配慮している。ご利用者様の心身の状況に応じ、食事作り、食器類の洗浄、後片付けを担当していただいている。</p>	<p>夏場の野菜作り、漬物作り、入所者の食事当番担当制、買い物の実施を計画的に進めていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ホーム内は禁煙となっているが、現在喫煙者はおらず支障はない。おやつについては個人で所持し楽しませているご利用者様もおられる。15時のお茶時はこちらより提供させていただいているが、時に数種類の品物を用意し好きなものを選んで楽しんでいただいている。</p>	<p>入所前の嗜好品調査、生活歴、個々の嗜好品の尊重のため、ゆっくりとした対話の時間を確保したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本としている。心身の状況に応じて、夜間のみオムツ対応、Pトイレ対応をとるご利用者様もおられる。個々に排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し適切な介助が実施できるように心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム内に入浴室がなく、併設事業所の入浴室を使用し他サービスご利用者様とともに入浴していただいている。時間や入浴日は決められており現状では希望に沿う形での提供は難しいが現在のところご利用者様には混乱なく実施できている。苜蒲湯、ゆず湯など季節を感じていただける対応には喜んでいただいている。		グループホームには風呂場がなくいつでも入浴できる状況ではないが出来る限りの対応をしていきたい。そして今後も環境改善に努めていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は定期的に居室を巡視し、利用者様が安心して眠っていただけるように配慮している。環境面では、季節に応じての寝具の調節、室温・湿度・換気、ポータブルトイレの設置等、必要に応じて配慮している。		就寝時間が統制されないように、ご利用者様個々の就寝時間を尊重した生活スタイルを支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の清掃、食器の洗浄や後片付け、洗濯物畳み、調理の下ごしらえ等できることをしていただいている。その中でご利用者様同士や職員とコミュニケーションすることによって張り合いや喜びを感じていただけるように心がけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会が少なく、ご本人で金銭管理ができています。限られているため職員が管理させていただいている。		個々のに能力に合わせた金銭管理の支援、買い物外出等の計画的な実施により、お金を使う機会を提供したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の影響もあるが敷地内の散歩や日光浴などは、その都度声がけし希望に応じて実施するようにしている。冬季前は利用者様とともに畑で野菜作りを行い、水くれ、草取り、収穫作業等で戸外にでることが多かった。		ご利用者様が主体的に戸外に出られるように支援し個別外出支援を推進していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者様の希望も聞きながら花見見物、大衆演劇の鑑賞、紅葉見学、ぶどう狩りの外出を実施した。その都度ご家族様にも声がけして可能な方には参加していただいている。		外出行事内容の充実を図っていきたい。ご利用者様の希望に添えるように配慮していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が送られてきたり、ご家族様と話がしたい時等は電話をかけていただいて、大切な人との関係作りに協力できるように支援している。年賀状書きをしているご利用者様もおられる。		こちらからも体調不良時のみではなく、定期的に近況報告を実施したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	歓迎ムードを大切に、来訪者様には明るく挨拶するように心がけている。椅子や湯茶等の接待を行い、居室やリビングでご利用者様とゆっくりくつろいでいただけるように配慮している。		馴染みの方々に対する情報提供のあり方を検討しながら、良好な関係を維持していけるよう、職員が媒介となるように配慮する。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待に対しての見識を深め、自分たちの介護方法を振り返り、より良い介護が提供できご利用者の尊厳が守られるように留意している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般家庭同様であるという認識のもと、基本は入り口の鍵をかけずに対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	指導を受け居室戸の窓に暖簾を設置した。入室時はロックをして返事を確認した後に入室している。巡回時は睡眠を妨げないように配慮している。日中は活動の節目節目に様子を確認し、夜間は定期的な居室巡回を通して、それぞれその日の担当者が責任をもって全体把握に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	発生したヒヤリ・ハットの対応策をご利用者様全員一律に適用することはせず、個々に適切な対応がされるように配慮している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒には徘徊マットの活用、窒息には食事形態の工夫、緊急時の異物除去処置、誤薬防止のため服薬前のご本人への声かけ・声だし確認の実施、リビング見守り担当職員の配置、防災には避難訓練等を実施している。		マニュアルの活用・熟知・更新と火気への対応、ヒヤリハット事例の活用を通して、ご利用者個々の容態に応じた対策をとり、事故防止を第一に考えながら、事故発生時には迅速に対応できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救命救急法、AED使用の講習を定期的に受講している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や防災業者、地域の方の協力の下で年2回の避難訓練を実施している。災害時にはすぐに駆けつけていただける地域協力員の方がいる。防災用品の備蓄もされている。		防災組織図や緊急連絡網の見直し、また地域の協力員の方と定期的に顔を合わせることで、組織として災害時の協力体制を確認し維持していく努力をする。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクを危険視するあまり、身体拘束や過剰な抑制、予防策につながらないように現場で話し合い、ケースごとに適切な対応策となるよう配慮している。必要に応じてご家族にも説明を行うが、現在までのところご家族からは安全確保のために抑制を希望する声は聞かれていない。		具体的なリスクを把握し、ご家族様に説明しながらも、身体拘束や抑制対応の実施は弊害(筋力低下や不穏等)を伴う場合があることを理解してもらい、偏った安全対策にならないよう適切な対応がとれるように調整していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常生活の中での状況変化に注意し早期発見できるように変化、サインを記録に残し対応している。主治医に連絡等が必要な場合は速やかに連絡をいれ指示を頂いている。		健康管理チェック表を活用し、ご利用者様全員の基本的な食事摂取状況、体温、血圧、また必要に応じて排尿便等の状況を記録し、変化の早期発見に気を配っている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が服薬の管理をしている。職員が全てのご利用者様の服薬の作用・用法等について理解まではいたっていないが、処方箋のコピー等ファイルし確認できるようにしている。服薬の支援にはおいては、間違いがないように手渡しし、きちんと服薬できているかの確認をしている。服薬の変更においては、詳細な記録をしている。		ご利用者様内服薬の処方箋のコピーを全職員が確認して、内容の把握を徹底させる。誤薬防止対策と同意時に事故の発生に対しても適切な対応ができるように配慮したい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬の調整を行い、個人ごとに対応している。便秘気味のご利用者様には水分を摂取していただけるように声がけ見守りを行っている。		水分摂取は、飲み物の好みにより十分な補給ができないときがあるため様子をみながら個々の好みに合わせた工夫をする。便秘の原因(排便姿勢の問題、腸運動の低下、オムツ着用による圧着感、疾病)を探り、全職員が適切な排便介助の知識を身につけ実践できるようにしたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	10:00、15:00にはご利用者様全員で、消毒薬でのうがいを実施している。食事後は個々に口腔ケアを実施していただき、必要に応じて介助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、栄養バランスが保たれるように配慮されている。個々の状況に合わせながら適切な量を提供するようにし、咀嚼・嚥下困難がある方については食形態の工夫、嚥下補助剤の使用をしている。必要に応じて排尿状況を確認し脱水等に注意しながら声がけや介助に努めている。		栄養士による食事作り指導やご利用者様個々の状態に合った栄養バランス・カロリーについての指導。食中毒防止のための指導や確認を受ける。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	1日2回のがい薬を使用してのがいを実施し、手洗いを職員がついて実施している。冬季は加湿器を各居室とリビングに設置して湿度管理に努めている。朝、夕の2回次亜塩素酸ナトリウム溶液を使用し手すり、椅子、ドアノブ等を消毒している。ノロウイルス、インフルエンザ等の対応マニュアルが作成されており、職員に周知している。施設全体の定期消		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の器具の消毒、手洗いの徹底。1日の終わりには、台所用品の塩素消毒を実施している。食器は毎回洗浄後熱風乾燥している。食材は業者と連携しその都度新鮮なものが配達されるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入り口は、併設事業所の談話室になっており不自由で精神的にも窮屈であるため、改善が図られるように上越市に申し入れを行っているが改善が進まない状態である。併設事業所との境目の戸(ホームの玄関)は玄関とわかるようにホームの表札をかかげる等して工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ「家庭的でくつろげる空間」を提供する姿勢を基本としている。TVの前に敷物を敷いてコタツを設置したり、季節の花や鉢を置いたり、季節感のある絵画や飾りを季節ごとに飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前に長いす、コタツを置いて自由に集まれる空間を提供している。食事用テーブルは、混乱がないように食事時の席が一応決められているが、ご利用者の気分により臨機応変に座席を変更したり、食事以外では自由に座っていただけるように職員が見守りの中配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談しながら寝具やタンス、テーブル、椅子等なじみの品物を自宅より持ってきて使用していただいている。また好みによって、ラジオ・アルバム・本・ポット等を置き、自由にプライベートな空間を楽しめるように工夫している。		今後もご家族様と連携を図っていきながら、ご利用者様にとって「自分の家の自分の部屋」となるよう、居室の環境作りを支援していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の稼働や窓開けにより、換気を心がけている。各居室と談話室、廊下の冷暖房を使用して適温設定を心がけている。冬季は建物の構造上足元の冷え込みが感じられるが、必要に応じてひざ掛けや下着の重ね履き等で冷えに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様個々の身体機能に合わせてテーブル席の配置、居住部屋の配置、家具等の模様替えを行い、建物内を十分動きが取れるようにすると同時に、コールマット、手すり、安全マット等を駆使して安全を守るようにしている。		職員の考えだけでなく、外部の人の意見を積極的に取り入れ、ご利用者様にとってより安全で快適な環境が整備できるようにしたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の住み替え時は特に混乱が生じ易いので、個々のわかる力に合わせ、居室入り口に大きく名前や目印になるようなものを掲げ認識し易いようにしている。トイレの表示やトイレ内水洗ボタンの表示も工夫している。歩行の際使用していただきたい歩行器を常にご利用者様の目に入り易いところに置くようにし忘れを防止している。		日常支援において全職員がエンパワメントの視点を持ち、ご利用者様が自らできることに気づき、自信を持てるような声かけ・介助を実践し、できるだけ自発的で主体的な生活ができるような支援を強化したい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに季節のプランターを置いている。外庭には春野菜、夏野菜、冬野菜を育てる畑があり、管理と収穫にはご利用者様に大いに参加していただいている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の生活の中で、職員は利用者様に目配り、気配りをして安全で安心な生活を送っていただいている。時には、職員の声かけで笑い声が聞けたり、懐かしい歌が聴けたりする。利用者様一人一人に合わせた支援によって忘れかけていたことが続けられることにつながっている。